

笑いと希望 アフガンに届けます

関西のジャーナリスト・落語家ら

自爆テロなどが相次ぐアフガニスタンの子どもたちを笑いで力づけようと、関西在住のジャーナリスト西谷文和さん(53)と落語家の笑福亭鶴笑さん(54)らでつくる「チームお笑い国際便」の一行が10日から、首都カブールの訪問を計画している。今年の大統領選後の混乱もあり、直前まで状況を見極める構えだ。

学校や孤児院、病院訪問へ

2001年以来、11度取材で訪れた西谷さんが発案した。「笑いと物資を届けること」で希望をもってもらいたい。アフガンの子どもたちが腹の底から笑うことなんてそんなにはないと思う。日本から来た、わけのわからんオッサンたちが心に焼きつくんじゃないか」

人形を使うパペット落語の鶴笑さんをはじめ、バルーンアートが得意な落語家桂三益さん(43)、マジシャン阪野登さん(46)と、言葉をこえて伝える芸を持つ3人が一緒に行動する。10日夜に関西空港を出発。カブールで6泊して学校や孤児院、病院などを訪れる予定だ。鶴笑さんは4年前には西谷さんらとイラクに渡り、遊覧民キャンプでパペット落語をして喜ばせてきた。

「子どもたちは天真らんまん。子どもたちの笑顔が平和につながると思います」と話す。

実現に向けて、広島平和記念資料館や天満天神繁昌亭など10カ所以上でチャリティー寄席を開いてきた。渡航費などの経費をまかない、現地で食料や医薬品など約100万円分を購入して、支那物資として渡すことになっている。

ビザはおろしており、現地での活動には通訳と護衛がつく。だが、大統領選の決選投票をめぐって異例の全票再検査が決まり、7月中旬には国際空港への到着もあった。西谷さんは「ギリギリまで状況を見極めて判断します。延期することになっても、必ずアフガンに行きます」と話す。

募金の宛先は「郵便振替00980・8・273981 チームお笑い国際便」。

(落語家二)



カブールの遊覧民キャンプで暮らす子どもたち。2013年8月、西谷文和さん提供



阪野登さん(手前)、笑福亭鶴笑さん(中列右)、桂三益さん(同左)、西谷文和さん(奥)＝大阪・天満天神繁昌亭、山下奈緒子撮影